

1 章 調査に至る経過と各年度の調査概要

1 過去の調査

三朝町が実施した三徳山における埋蔵文化財調査としては、まず三佛寺資料館建設事業及び農業構造改善事業に伴い実施された昭和62年度の三徳山遺跡発掘調査がある。調査では、三佛寺境内の資料館建設予定地（御旅所）において事前に試掘を行い、焚火や整地の跡が検出され、青磁、中近世の土師器、瓦質土器、鉄器等が出土した。調査にあたった国田修二郎氏は整地の理由を御旅所造成のためと推測している。

昭和62年度の三徳山遺跡発掘調査では、農業構造改善事業に伴い三徳川右岸に位置する字九曜・九曜頭の通称「千軒原」の10箇所でのトレンチ調査も実施された。千軒原は「往古の坊」跡とされ、宝永3年（1706）には仏像などが出土したことが寛保2年（1742）の松岡布政による地誌『伯耆民談記』に記され、地名からも僧坊跡などの遺構の存在が想定されたが、土坑1基を確認したのみで、遺物の出土はなかった。『三徳山地域保存管理計画（1991）』の中で鳥取県文化財保護審議会委員山本清氏は、いずれの調査地においても調査が十分尽くされたとはいえず、将来の調査において考慮すべき点を指摘している。

次に、平成4年度に農用地有効活用モデル集落整備事業に伴う三徳山海老谷発掘調査がある。海老谷は三徳川を隔て、投入堂と対面する位置にあり、かつて尼寺があったと伝わる。享保19年（1734）の『美徳山三佛寺境内絵圖』には「清凉院」と記されている。調査では遺構の検出はなく、白磁、青磁、鉄釘等の遺物が出土している。調査にあたった日野琢郎氏は出土した多数の鉄釘から、それなりの建築物が存在したとしている。

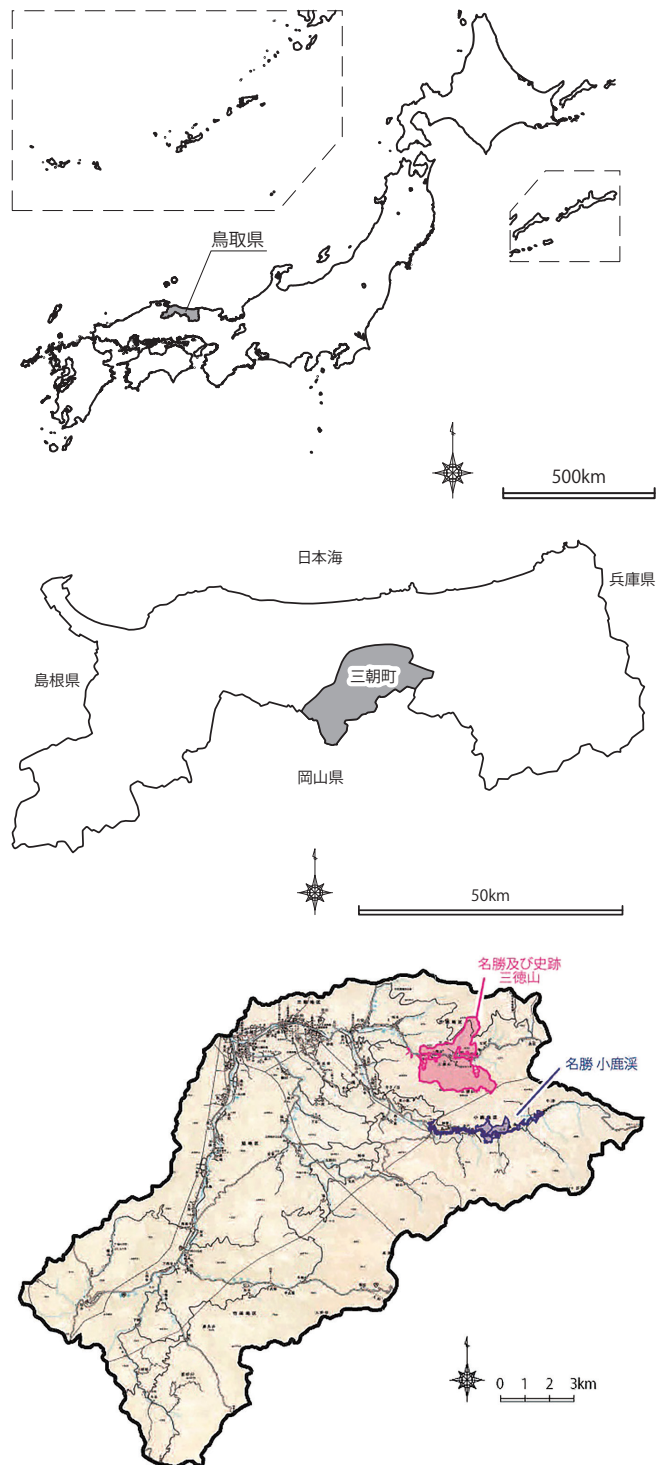


図1 名勝及び史跡三徳山の位置

2 三徳山歴史遺産調査

平成13年度から『環境整備基本計画』の策定と並行して「三徳山歴史遺産調査」を開始した。この調査は三徳山の文化財や自然の価値を調査し、広く周知・啓発することで、後世まで守り伝える活動の契機とするため関係機関の協力を得て実施しているものである。

主な調査としては、平成13・14年度の建造物と仏像を対象とした年輪年代調査がある。この調査は奈良文化財研究所古環境研究室長光谷拓実氏を中心となって実施された。年輪から木材の伐採年代を科学的に特定するこの調査により、従来は建築様式から推定されるのみであった投入堂の建立時期について、平安時代後期であることが確定した。一方、木造蔵王権現立像（正本尊）については、これまでも納入願文の解読により奉納の時期を仁安3年（1168）とする研究があったが、光背の測定結果がこれとほぼ合致する1165年であり、文化財の歴史的価値が文献と科学的調査の双方によって証明された貴重な成果となった。

また、平成13～15年度には奈良国立博物館仏教美術資料研究センター長松浦正昭氏による仏教美術品調査が実施された。木造蔵王権現立像（正本尊）について、前述の納入願文の未解読部分を解読することによって、その作者が慶派の仏師「康慶」とする説が導かれた。正本尊像に関してはさらにX線撮影によって内部に3枚の文書と参籠札が残されていることも判明した。さらに、重要文化財銅鏡と同寸、同紋様の白銅鏡が中国の浙江省博物館に所蔵されていることが判明し、現地調査等によって確認を行った。大陸との文物交流の歴史を考える上で貴重な資料となった。

平成15年度以降には、埋蔵文化財調査にも着手し、古文書や絵図、小字名等から遺構の存在が想定される場所の調査を実施した。

平成15年度には、行者道の途中にある平坦地の調査が実施された（三朝町教育委員会『三徳山行者屋敷跡発掘調査報告書』）。この場所は『美徳山三佛寺境内絵圖』に「行者屋敷」として記されている。調査は行者道中にある平坦地（第1トレンチ）と、谷を隔て南側に位置する平坦地（第2トレンチ）で行われた。その結果、第1トレンチからは溝や土抗、第2トレンチからは柱穴跡などの遺構が検出され、16世紀後半ごろのものと思われる陶磁器類や、土師器、鉄製品などの遺物が出土した。特に、第1トレンチ出土の備前焼の大甕は生活に用いる水を貯める水甕と考えられ、ここに存在した建物は行者たちの修行の拠点として機能した可能性が高いといえる。一方、出土した陶磁器類のうち、特に染付や白磁などは中国景德鎮産で、当時庶民が日常に使用しない奢侈品であることから、調査にあたった濱隆造氏はこの地域を支配していた南条氏との関連を指摘した。

平成16・17年度に、三徳川右岸の千軒原へ続く斜面に位置する「大門」と呼ばれる石柱の調査が実施された（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山大門跡発掘調査報告書1』）。大門については『伯耆民談記』に山門跡として「大なる石」の記述がある。平成16年度の第1次調査によって、南北2列の列石と、道の痕跡が検出され、永楽通寶1点が出土した。さらに平成17年度の第2次調査によって、第1次調査で検出した道の下に、別の古い道が検出された。これらの遺構から、石柱は何らかの境界として機能したと推測される。永楽通寶は明の永楽帝の時代、西暦1411年に鑄造が始まり、室町時代中期には貿易を通じて日本にも輸入された。日本で作られた私鑄銭も流通したが、出土した永楽通寶は字体等から中国での鑄造品である。国内で

の流通は寛永通寶に駆逐される17世紀中ごろまでに限定されるため、この遺跡の年代はそれ以前とみられる。

平成17年度には、大門跡調査と並行して、県道拡幅工事に先立つ事前の試掘調査が6箇所で開催され（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅰ』）、三佛寺東方の三徳川左岸に位置する平坦地において、新たに遺跡が確認された（三徳山観音院遺跡）。調査の結果、建物の礎石が検出され、同じ層から鉄釘や鎧の部品（小札）など100点を超える鉄製品と、少量の炭化物などが出土した。この場所には何らかの建物が存在し、火災により消失したものと考えられる。また、さらに下層から近世の大鍛冶のものとみられる炉壁が廃棄された状態で見つかった。付近に鉄の加工を行う施設があったものと思われる。

平成19年度には三佛寺本堂の保存修理事業に伴う発掘調査の予備調査（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅱ』）として、周辺のトレンチ調査を実施し、土層堆積等の確認を行った。また、並行して三徳山南麓に位置する神倉を中心に、三徳山関連遺構分布調査が実施され、冠巖付近に三徳山の祭祀に関する遺跡が確認された。

平成20年度には、三佛寺本堂解体に伴い、本堂基壇上の調査を実施した（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅲ』）。まず礎石等について調査し、柱の位置決めのための墨書を確認した。また基壇上面から、天保10年（1839）の現本堂再建以降の焼土、ピット等の遺構を検出し、銭貨を中心とした遺物が出土した。さらに基壇北東側の地盤沈下に伴う陥没箇所（第1・第2トレンチ）及び基壇中央部（第3トレンチ）でトレンチ調査を実施し、自然形成の段丘堆積層の上に、大規模な造成が行われていることを確認した。また、追加的にボーリング調査を実施し、トレンチ調査で及ばない深度の土層情報を補完した。この調査では、前身本堂の遺構確認も期待されたが、現本堂再建前に遡る遺構及び遺物は確認できなかった。

平成21年度は、正善院東側の字妙光に位置する畑のトレンチ調査を行い、2つの異なる時期の建物跡（礎石建物・掘立柱建物）を検出し、陶磁器を中心とする遺物が出土した。出土遺物には行者屋敷跡の出土遺物と共通する16世紀の輸入磁器類が含まれ、南条氏の関与を示唆するものとなった。天正5年（1577）に南条元統が三徳山を再興した際に存在した12の僧坊の1つと想定される。

平成22年度は、千軒原の調査（第2次）を実施した（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅳ』）。昭和62年度に調査していない地点でのトレンチ調査を行ったが、遺構及び遺物は確認できなかった。第1次調査の結果も踏まえると、現在「千軒原」と呼ばれる箇所に、伝承にあるような大規模な僧坊群が存在した可能性は低いと考えられる。

平成23年度には、三徳山南麓の^{かんのくらはとけだに}神倉 佛谷遺跡（^{どうやしき}堂屋敷地区）を調査した（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅳ』）。人為的な平場に近代の祠とこれに関連すると思われる建物跡を検出した。その下層から炭化物を充填した土坑を検出し、ここでの祭祀が近世以前に遡ることを確認した。現在三徳山の宗教活動の中核である北麓（三佛寺周辺）だけでなく、南麓においても山岳信仰に関する祭祀儀礼の営みが行われていたことを確認した。

平成24年度には、三徳山北麓に位置し、『美徳山三佛寺境内絵圖』に付箋でその名が記されている^{れいがいわ}鈴ヶ岩の調査を行った（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅴ』）。その結果、岩窟状の窪みの奥部に周囲の岩と異なる石2基が配され、石積及び転圧により人工

的に平場が作られていることを確認し、木炭を伴う炉跡を検出した。奥部に配された石を依代^{よりしろ}と見立てた祭祀に関する遺跡と考えられる。なお木炭の放射性炭素年代測定の結果、1660～1684年、1734～1807年、1929～1954年の3つの暦年代が得られたが、享保19年（1734）の『美徳山三佛寺境内絵圖』に記載があることを踏まえると、1660～1684年に遡る可能性が高い。この調査結果は、『美徳山三佛寺境内絵圖』に記載された箇所が三徳山の山岳信仰において重要な役割を果たしていたことを示し、今後の調査における同資料の重要性を再認識するものとなった。

平成25～28年には、平成24年3月9日に発生した正善院の火災に伴い同院本堂が消失し、この本堂再建に向けた整備事業の史料とするため、本堂跡と庭園周辺において発掘調査を行った（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅵ』～『同Ⅷ』）。各トレンチからは中世から江戸時代の土器及び陶器片や寛永通宝などが検出されたが、ほかの建物や池の存在が確認されるような遺構は検出されなかった。

平成26年度には、観音院の「三徳山駐車場」バス停への休憩舎の建設及び県道から参道の途中にかけて送水管の設置に伴い、それぞれの予定地で試掘調査を行った（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅵ』）が、いずれも遺跡は検出されなかった。

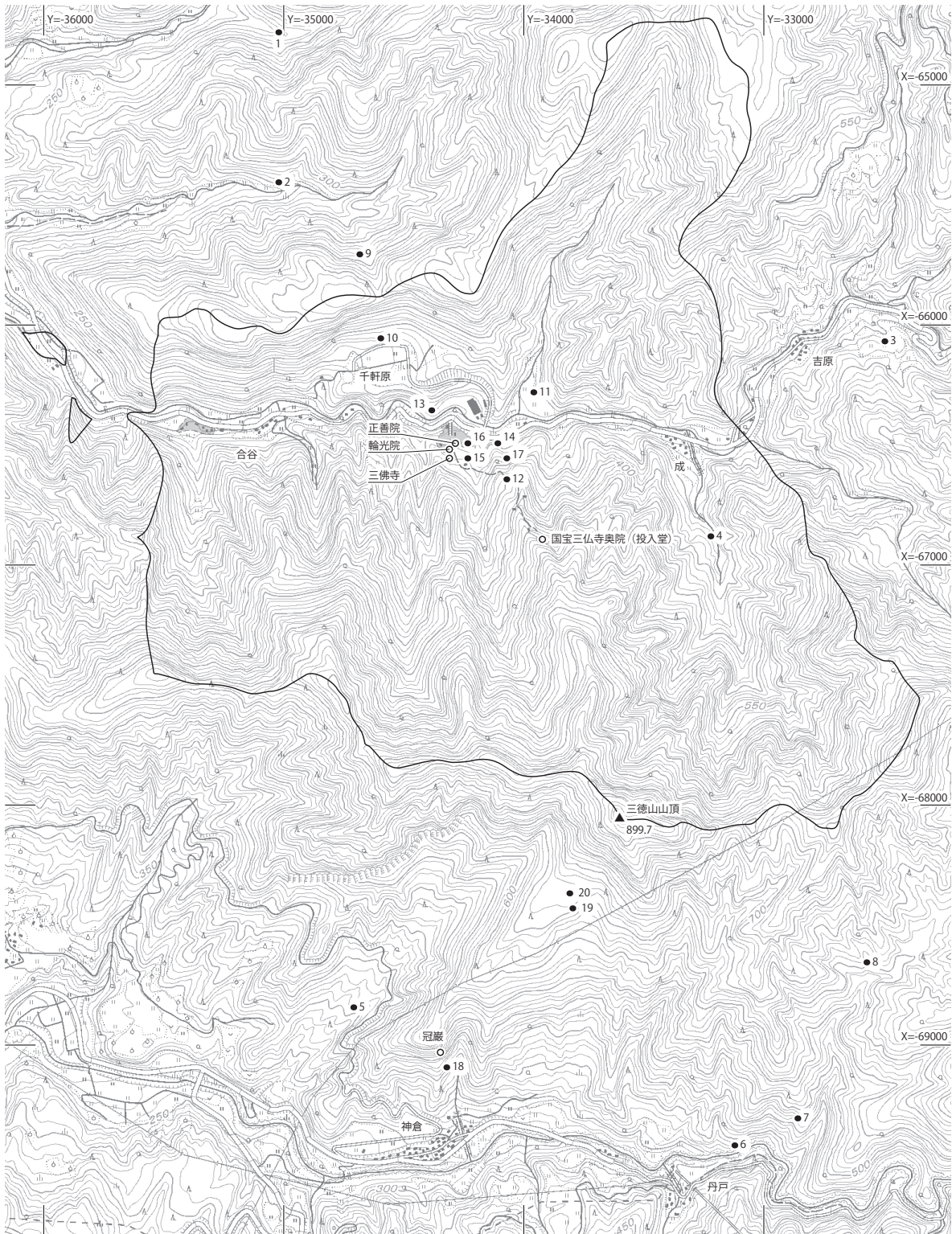
平成28年には、輪光院の供養塔建設に向けて予定地である輪光院位牌堂南東の箇所において試掘調査を実施した（三朝町教育委員会『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅷ』）が、遺構等は検出されなかった。

引用・参考文献

- ・『三徳山遺跡発掘調査報告書』，三朝町教育委員会，1988.
- ・『三徳山海老谷発掘調査報告書』，三朝町教育委員会，1993.
- ・『三徳山行者屋敷跡発掘調査報告書』，三朝町教育委員会，2004.
- ・『名勝及び史跡三徳山大門跡発掘調査報告書Ⅰ』，三朝町教育委員会，2005.
- ・『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書』，三朝町教育委員会，2006.
- ・『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅱ』，三朝町教育委員会，2008.
- ・『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅲ』，三朝町教育委員会，2010.
- ・『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅳ』，三朝町教育委員会，2012.
- ・『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅴ』，三朝町教育委員会，2013.
- ・『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅵ』，三朝町教育委員会，2015.
- ・『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅶ』，三朝町教育委員会，2016.
- ・『名勝及び史跡三徳山発掘調査報告書Ⅷ』，三朝町教育委員会，2018.

表1 三徳山関係発掘調査一覧

年 度	内 容
昭和62年度	三徳山遺跡発掘調査（御旅所、千軒原）
平成4年度	三徳山海老谷発掘調査
平成13年度	三徳山歴史遺産調査 開始 三佛寺建造物と仏像の年輪年代調査 三佛寺仏教美術品調査
平成14年度	三佛寺建造物と仏像の年輪年代調査 三佛寺仏教美術品調査
平成15年度	三佛寺仏教美術品調査 行者屋敷跡発掘調査
平成16年度	大門跡発掘調査（第1次）
平成17年度	大門跡発掘調査（第2次） 県道鳥取鹿野倉吉線改良工事に伴う試掘調査
平成19年度	三佛寺本堂保存修理に伴う試掘調査（第1次） 三徳山関連遺構分析調査（神倉地区冠巖、参詣道）
平成20年度	三佛寺本堂保存修理に伴う発掘調査（第2次）
平成21年度	三徳山妙光遺跡発掘調査 正善院境内の地形測量
平成22年度	千軒原発掘調査（第2次）
平成23年度	神倉佛谷遺跡 堂屋敷地区発掘調査
平成24年度	三徳山美徳遺跡鈴が岩地区発掘調査
平成25年度	正善院境内発掘調査（第1次）
平成26年度	正善院境内発掘調査（第2次） 休憩舎建設に伴う試掘調査 送水管敷設に伴う試掘調査 神倉後口山遺跡（湯地点）の地形測量
平成27年度	正善院境内発掘調査（第3次） 神倉後口山遺跡（湯地点）集石群の三次元計測
平成28年度	正善院境内発掘調査（第4次） 輪光院境内掘調査 神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第1次）
平成29年度	神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第2次）
平成30年度	神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第3次）
令和元年度	神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第4次）
令和2年度	神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第5次）
令和3年度	神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第6次）
令和4年度	神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第7次）
令和5年度	神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第8次）
令和6年度	神倉後口山遺跡「湯地点」発掘調査（第9次）



既知の遺跡

- 1 坪谷鉄山たたら
- 2 かじ屋敷たたら
- 3 吉原たたら
- 4 鉦屋敷たたら

- 5 那倉谷たたら
- 6 尼子谷たたら 1
- 7 尼子谷たたら 2
- 8 尼子谷たたら 3

- 9 坂本風穴
- 10 三徳風穴
- 11 海老谷遺物散布地
- 12 三徳山行者屋敷跡

- 13 三徳山大門跡
- 14 三徳山親音院遺跡
- 15 三佛寺境内遺跡
- 16 三徳山妙光遺跡

- 17 三徳山美徳遺跡「鈴が岩地区」
- 18 神倉佛谷遺跡「堂屋敷地区」
- 19 神倉後口山遺跡（湯地点）
- 20 神倉後口山遺跡（イケガナル地点）

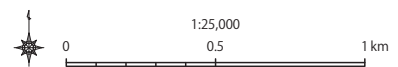


図2 名勝及び史跡三徳山指定地

3 調査の目的と方法

今回の調査の目的は、平成23年度に実施した三徳山南麓の湯地点等において確認された集石等の遺構群について、その分布と性格を検討し、三徳山南半部がどのように利用され、そこで人々がどのように活動していたのかを明らかにすることにある。

これまで多くの調査研究がなされてきた三徳山北半部（国指定名勝及び史跡三徳山、国宝三仏寺奥院（投入堂）など）の成果（三朝町教育委員会 名勝及び史跡三徳山 行者屋敷跡発掘調査、大門跡発掘調査など）に加え、平成23年度に実施した冠巖の調査（三朝町教育委員会 神倉佛谷遺跡 堂屋敷築発掘調査）に続き三徳山南麓の遺構群を検討、その性格を明らかにすることで、「宗教空間」三徳山全山の姿を明らかにすることを目論む。

今回の湯地点及びイケガナル地点の調査は、地表に露出している集石や土塁の分布・範囲及び構造を明らかにすることを主眼に置いたものである。

そのため、調査は集石などの範囲・形状を確認するための表土除去などの清掃を行ったうえで、三次元レーザー測量・写真測量等による遺構分布図及び各遺構図作成を実施。土塁等構造を明らかにする必要があると判断した場合にはトレンチを設定し、裁ち割り調査を行った。

図化は状況に応じて三次元レーザー測量（外部委託）、ドローンによる写真測量（立命館大学岡寺准教授）、写真測量（鳥取県埋蔵文化財センター）によりそれぞれの機関に協力を得つつ実施した。

写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（センサーサイズ フルサイズ、有効画素数1,221万画素）によって行った。

調査に当たっては、適宜日本山岳修験学会理事の山本義孝氏にご指導いただきつつ進めた。

集石の清掃・図化に当たっては、山本氏の指導を得つつ、集石中で原位置を留めていないものを除去し、なるべく原位置を留めていると判断したものを露出させた状態で図化した。

4 調査体制

調査主体 三朝町教育委員会（事務局：社会教育課）

平成26～27年度（現地踏査、計測）

教育長 朝倉 聡

社会教育課長 西田寛司, 文化財室 主幹 藤井紀好, 副主幹 柚垣大作

平成28年度（第1次調査）

教育長 朝倉 聡（平成28年9月30日まで）

教育長職務代理者 藤井俊子（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）

教育長 西田寛司（平成29年1月1日から）

社会教育課長 松原照宗, 文化財室 主幹 藤井紀好, 副主幹 柚垣大作

平成29年度（第2次調査）

教育長 西田寛司

社会教育課長 松原照宗, 文化財室 主幹 藤井紀好, 副主幹 柚垣大作

平成30年度（第3次調査）

教育長	西田寛司		
社会教育課長	佐々木敦宏,	課長補佐	山本達哉
文化財係 副主幹	柚垣大作,	主任	山本勇樹

平成31年度（令和元年度）（第4次調査）

教育長	西田寛司		
社会教育課長	佐々木敦宏,	課長補佐	山本達哉
文化財係 主査	柚垣大作,	主任	山本勇樹

令和2年度（第5次調査）

教育長	西田寛司		
社会教育課長	山本達哉,	課長補佐	河中文正
教育文化係 主査	矢吹幸久,	主任	山本勇樹, 主事 福松勇希

令和3年度（第6次調査）

教育長	西田寛司		
社会教育課長	山本達哉,	課長補佐	河中文正
教育文化係 主任	山本勇樹,	主事	福松勇希

令和4年度（第7次調査）

教育長	西田寛司		
社会教育課長	山本達哉,	課長補佐	河中文正
教育文化係 主査	村岡 健		

令和5年度（第8次調査）

教育長	西田寛司		
社会教育課長	角田正紀,	課長補佐	河中文正
教育文化係 主査	村岡 健,	主任	田栗裕也（令和5年11月30日まで）

令和6年度（第9次調査）

教育長	西田寛司		
社会教育課長	角田正紀（令和6年6月30日まで）		
社会教育課長	谷川篤志（令和6年7月1日から）		
課長補佐	河中文正,	教育文化係 主任	河藤正隆

調査指導 日本山岳修験学会 理事 山本義孝

5 各年度の調査概要

(1) 平成26年度調査概要

平成23年度の踏査によって確認された湯地点の集石群（Ⅲ区集石群）について、次年度以降の調査に備え、その時点までに確認していた集石群所在地周辺の地形測量を実施した。業務の実施期間は平成26年9月26日から同年12月26日までである。測量精度は500分の1、測量面積は約3,600㎡である。この段階では、各集石の位置とおおよその外郭のみ図化することとした。集石にはⅢ区集石群1号から14号までを付番した。

(2) 平成27年度調査概要

前年度の地形測量を踏まえ、Ⅲ区集石群における各集石の三次元レーザー計測を実施した。業務の実施期間は平成27年8月26日から平成28年2月10日までである。現地での計測に先立ち、平成27年10月3日から5日まで山本義孝氏の現地指導を受け、各集石の清掃作業を実施し、集石の形状範囲の確認を行った。この結果、前年度に付番したⅢ区集石群のうち6号集石が5号と連結すること、10号・11号集石としていたものが一体であることが判明した。また、新たに3基の集石を確認して15号から17号集石までを付番、併せて三次元レーザー測量・図化を行った。

(3) 平成28年度調査概要

5月に分布調査（踏査）を実施。新たにⅠ区19号集石（階段状遺構）、20号集石（サイトウ壇）、21号集石（修法壇）、Ⅱ区22号集石（磐座）、23号集石（祭祀場）とそれぞれ目される5基の集石を確認した。これらの集石を清掃し、遺構形状、範囲を確認、写真撮影等を実施した。

同年秋には集石数基の裁ち割りをを行い、内部構造の確認を行う予定としていたが、天候不順が続き調査を見合わせていたところ、同年10月21日に鳥取県中部地震が発生、三朝町においても震度5強を観測し、大きな被害を受けた。地震被害の確認と対応を優先したため、予定していた集石の調査を中止した。

(4) 平成29年度調査概要

未確認の集石等の存在を確認するため、Ⅰ区・Ⅱ区集石群の清掃及び分布調査を実施した。その結果、Ⅱ区23号集石の北西に隣接する新たな集石群を確認し、その南側に付随する26号集石（礎石立建物跡）を確認した。さらに、建物跡内部の東側中央に屋内炉と目される方形の石組みが確認され、建物跡は大宿（参籠宿）と推測された。また、Ⅰ区20号・21号集石の東側に人工の土壇と、その上に礎石立建物跡を確認した。さらにその北東側にⅠ区27号集石（磐座）を確認し、これらの遺構の図面作成を行った。

また、調査地の北の盆地状の湿原（イケガナル地点）の南西端にも集石群が点在し、さらに、湿原の北側にも磐座と目される複数の巨岩とその周辺には祭祀区画を構成する石列も確認した。これらの発見により、遺跡は当初想定していた範囲より大きく広がることが判明した。

(5) 平成30年度調査概要

前年度に確認したⅡ区26号集石とした礎石立建物跡（大宿）のトレンチ調査とともに、建物内西側で確認した集石遺構の裁ち割り調査を行った。

あわせて、周辺の踏査を実施し、湯地点の南側に位置する通称「大神（狼）岩」西側の遺構群（20頁、図9㉓）礎石立建物・祭祀場・集石遺構・人工平場、通称「月の輪」の巨石を清掃のうえ状況確認を行った。

また、湯地点周辺の約4,000平方メートルの地形測量と、前年度に確認した遺構（Ⅱ区23～25号集石・26号集石・Ⅰ区27～31号集石（磐座ほか周辺））の三次元レーザー計測を実施し、図化を行った。

さらに、地形測量成果をもとに踏査を実施した結果、湯地点北側のイケガナル地点において新たに大規模な集石遺構を確認した。

(6) 令和元年度調査概要

前年度にイケガナル地点の南側尾根上で確認した遺跡の調査を行い、方形に囲まれた石組みの遺構を3箇所、そして2条の土塁と基壇状集石を確認した。

遺跡の規模が大きいことから、令和元年度は全体の調査を断念し、調査地南側の遺構を掘り出し、部分的にトレンチ調査を行うことで基壇状集石や石組遺構の構造を確認するとともに、三次元レーザー計測により図化を行った。

あわせて、イケガナル地点周辺の踏査を実施し、イケガナル地点から山頂へと至る尾根上に、新たに礎石立建物跡と石段状の遺構を確認した。

(7) 令和2年度調査概要

前年度から引き続きイケガナル地点の集石遺構群の調査を行い、石組み遺構を新たに1箇所確認し、あわせて遺構は4箇所となった。また、土塁と基壇状集石について精査を行った。

遺跡の規模が大きいことから、調査地北側を中心に掘り出し、部分的にトレンチ調査を行うことで基壇状集石石組遺構の構造を確認するとともに、三次元レーザー計測により図化を行った。

(8) 令和3年度調査概要

湯地点Ⅱ区25号集石の除草と表土除去を行ったのち、補足的なトレンチ調査の実施を計画したが、同年7月の豪雨災害によって町内指定文化財に被害が発生したことに加え、新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大の状況から本年度の調査を断念した。

(9) 令和4年度調査概要

前年度に調査を計画し実施できなかった湯地点Ⅱ区25号集石周辺の調査の実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況により調査を延期した。

一方、イケガナル地点は、現場保護のため設置していたブルーシートの劣化が著しくなったため、10～11月にほぼ全面においてブルーシートを交換し、現場保護を行うに留まった。

(10) 令和5年度調査概要

前年度に調査を計画し実施できなかった湯地点Ⅱ区25号集石周辺の追加トレンチ調査を実施し、写真測量を行った。

また、同Ⅰ区27号集石の磐座隣接の同30号集石の南側の範囲において土塁とみられる箇所を表土除去、トレンチの設置などを行った。

さらに、同27号集石の磐座及び31号集石周辺の掃除を行った。

(11) 令和6年度調査概要

湯地点において、Ⅰ区27号集石の磐座周辺と隣接する壇状遺構、礎石立建物の追加調査を行った。

また、イケガナル地点において、南側の尾根について裁ち割り調査を実施したほか、石組遺構4及び同北側尾根の東側の法面の掃除とトレンチ調査を行い、各調査箇所において、各関係機関の協力により写真測量を実施した。

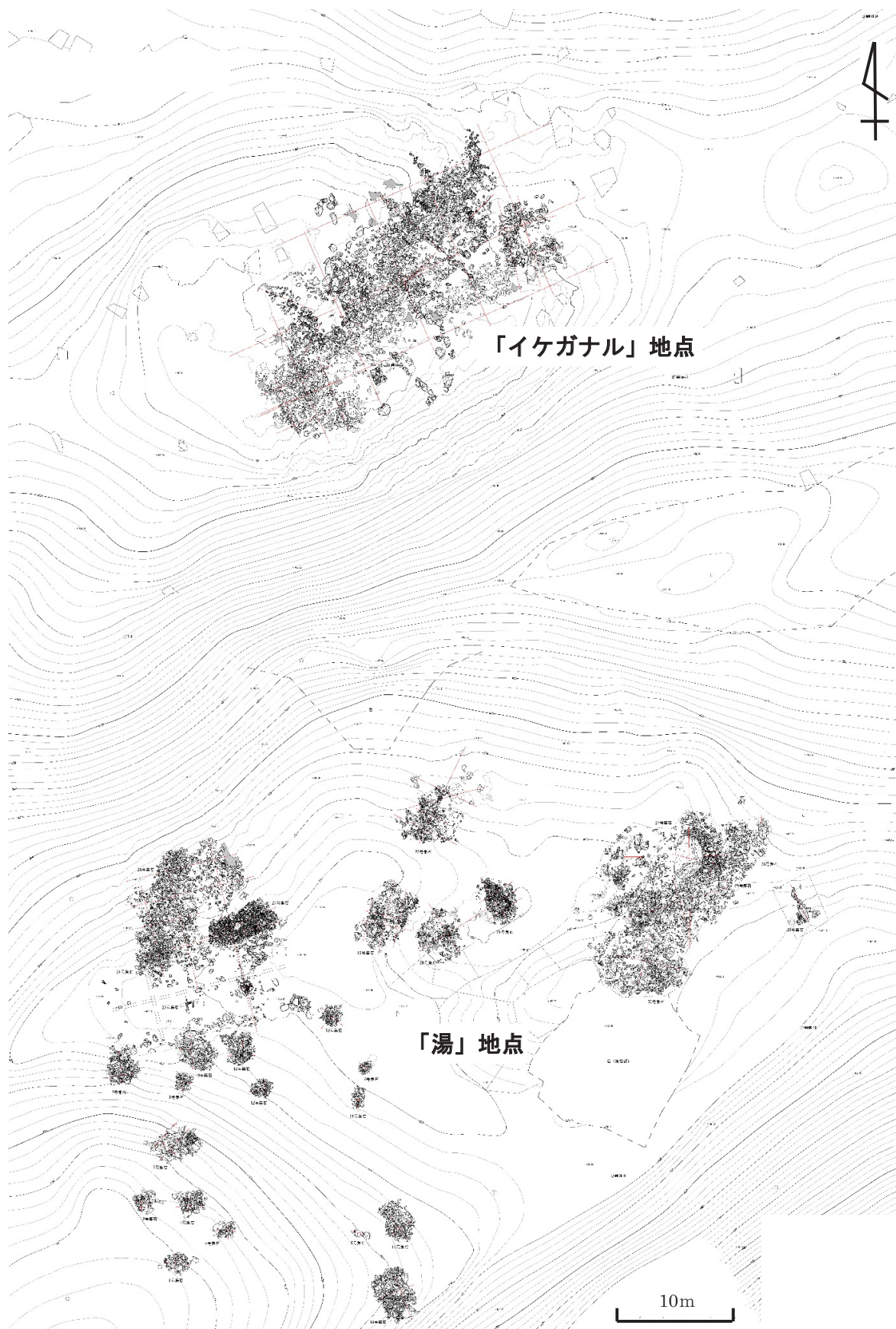


図3 後口山遺跡全体位置図

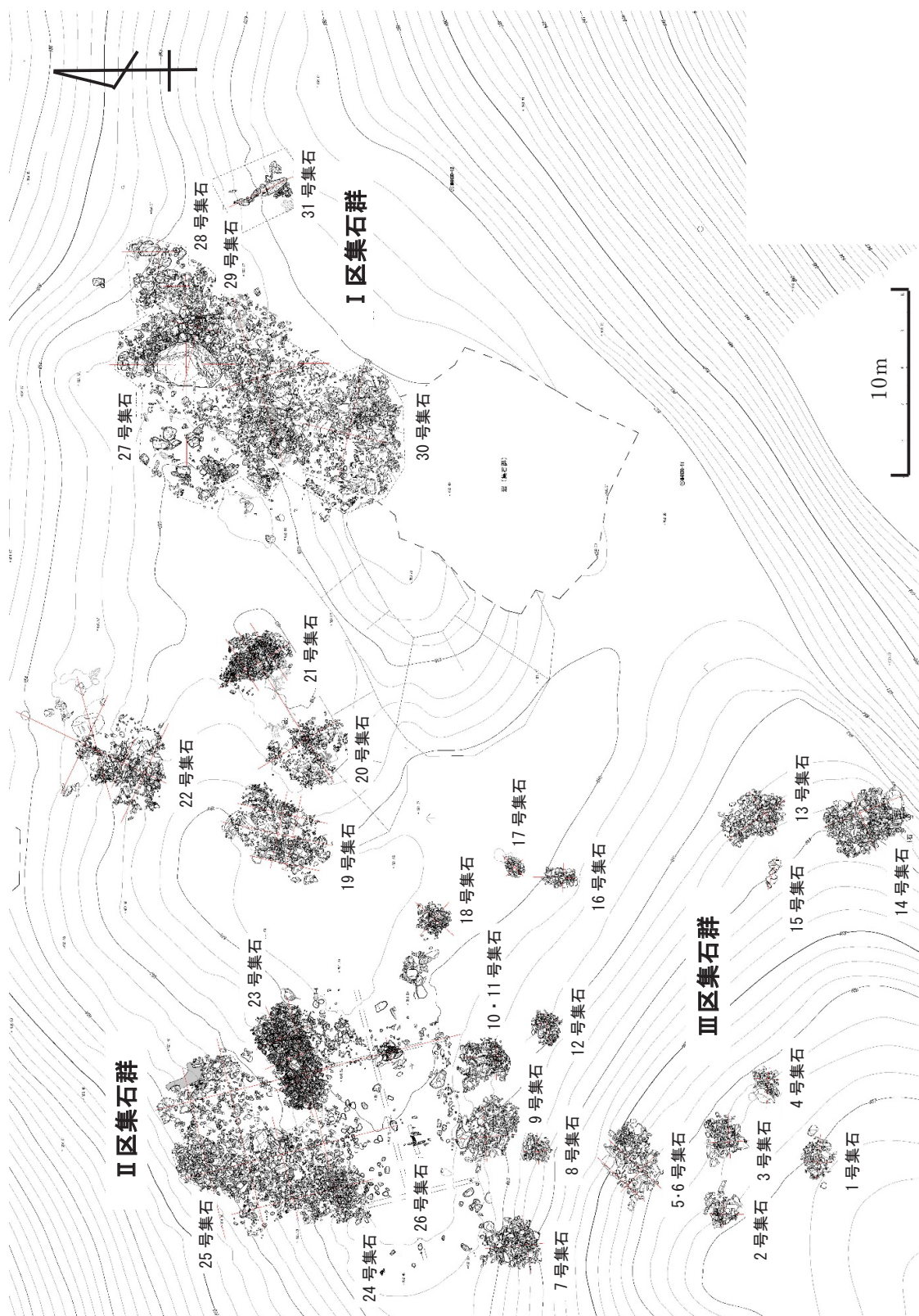


図4 「湯」 地点概略図

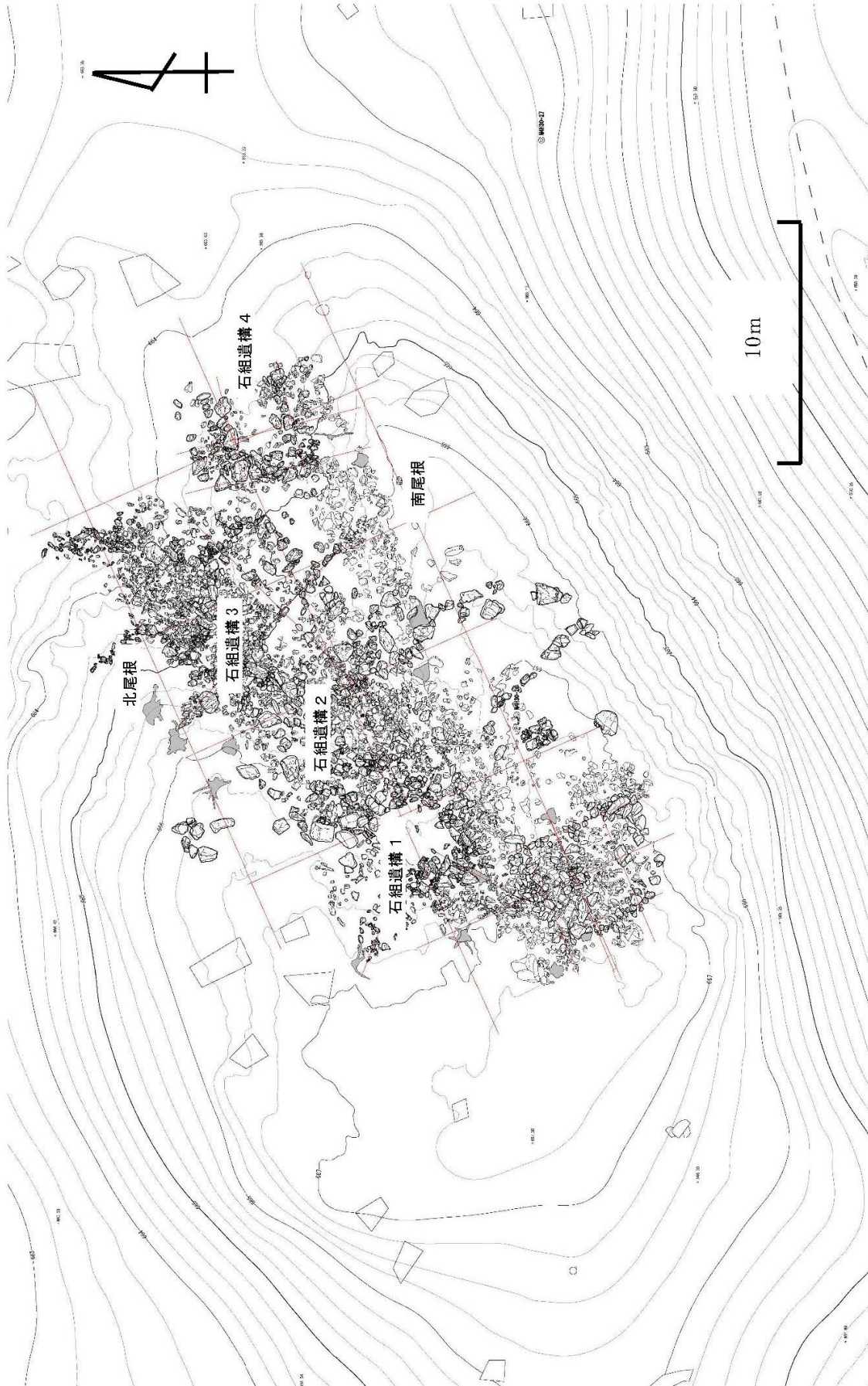


図5 「イケガナル」 地点概略図